岩手県　　グループホーム奥州

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　　2008年2月6日

【評価実施概要】

事業所番号	０３９１５００００３０
法人名	株式会社　奥州ケアｻｰﾋﾞｽ
事業所名	グループホーム奥州
所在地	〒023-0065　奥州市水沢区字水山４－１ （電　話）0197－25－6201

評価機関名	特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020－0021　岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年11月12日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】（平成19年10月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　19　年　1　月　20　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8	常勤　7　人，非常勤　1　人，常勤換算7.71人

（2）建物概要

建物構造	木造　造り
	1 階建て　1 階 ～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	その他実費負担　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	円
	または1日当たり　1000　円			

（4）利用者の概要（10月31日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2	名	要介護2	4	名
要介護3	3	名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢　平均	80.7 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	奥州市総合水沢病院、大手町歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

水沢区は、高野長英、後藤新平、斉藤實らの人材を輩出、また穀倉地としても知られている。グループホーム奥州は、平成19年1月開設、施設の特徴としては、風力発電（街灯）、雨水利用（事業所外利用）、全館床暖房等が挙げられる。ホームはJR水沢駅から車で5分ぐらいの位置にあり、近くに水沢小学校,商業高校、公民館などがある。開設以来、職員に異動はなく、協力医療機関との緊密な連携の下、日々の健康管理や言動変化に対応しながら、一人ひとりが安心してその人らしく生活できるようなケアに努めている。利用者も職員も穏やかな表情で、家庭的な雰囲気で生活されている様子が印象的だった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 平成19年1月開所のため、今回が初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 初めての評価だったので、先ずはホーム長とケアマネで記述し、スタッフ会議に提示した。今後ホームが取り組むべき項目を洗い出しながら、評価の理解や意義が実感できるような体制を整えることとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 市職員、民生委員、家族代表,地区老連等で構成される推進会議は3回開催しているが、出席率が良く、地域理解や交流のあり方等に貴重な意見が交流されている。市当局からの情報提供、アドバイスも頂きながら、包括センターが主催する研修会には参加している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 「グループホーム奥州」広報と共に利用者の健康状態や暮らしぶり、会計報告を個別的に配布している。家族、近隣、友人の訪問が多く、その都度意見や感想等の収集に努めている。今後は、家族会の結成設立に向けた検討をすることとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 区長や町内会長等の尽力で、開設当初の不安は払拭され、町内会にも加入し、地域の一員として地域行事にも参加し、回覧板なども利用者と一緒に回すなど、理解や親近感を高めるようなつきあいの機会を活かしている。

岩手県　グループホーム奥州

2. 評価結果（詳細）

確定日　平成20年2月6日

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所（平成19年1月20日）と同時に、全職員が「自分が利用者の立場に立って」を主眼に置きながら、事業所としての独自の理念「家庭的な雰囲気の中で、地域と共に暮らし、人として尊厳のある生き方を支援します」と謳い、実践指標として右欄に掲げる3点をあげている。		実践指標 ①地域の四季折々の自然・伝承を大切にします。 ②個人の時間を大切にします。 ③安全・衛生面を保った環境作りをします。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は定例のスタッフ会議及び日々のミーティングをにおいて、常に理念の実践に向けた話し合いを行いながら日々取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長・町内会長さん達の先導的な働きにより、町内会、近隣からの理解も高まり、地域の一員としての交流がなされている。町内会にも加入し、草取りやチャレンジデー、体育祭への参画等、また「グループホーム奥州」広報の配布や回覧板は利用者と一緒に廻すなど、地域に溶け込む機会を活かした取り組みがなされいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価だったので、ホーム長とケアマネの二人で記述したが、スタッフ会議に提示し、職員の気づきや意見を求めたが特に出なかった。次回は、職員全員で取り組み評価の意義や理解が実感できるようにし、ホームが取り組むべき評価項目を明確にしたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の構成は、市職員、民生委員、老人クラブ、家族代表2人、ホーム2人の7人体制である。これまで3回の開催しているが、委員の出席もよく、新設ホームに対する建設的な意見がされている。行事や日常活動、地域とのつながりを詳細に報告し、更に医療との連携や地域との連携など今後の課題も説明している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市当局からの情報提供やアドバイスを頂いている。包括センター、健康福祉課の主催する研修会などには参加している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりのホームの暮らしぶりや健康状態について「グループホーム奥州」広報と一緒にお便りも送付している。ご家族からの御礼の返事がきたり、決め細やかな通信交流をしている。また金銭管理は月１回の家族訪問時に、領収書と共に会計報告をしっかりとされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケート調査を行ったり、「面会記録票」のメモ欄を利用し家族･友人･仲間等の訪問者からの意見や要望などを聞き出すようにしている。開設以来10ヶ月になるが苦情はない。なお、意見箱も設置し、自由記述ができるよう配慮もされている。	○	家族会は未設置である。家族会の設立は、遠い市外地ご家族の方々への負担で思案しているというが、利用者と家族のふれあい、家族との意見交流の場、家族同士のふれあい、相談機能の強化等々考え合わせると、家族会の設置は今後の課題である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでは異動も離職者もないが、利用者との馴染み関係が深まっており、今後，異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、替わる場合も利用者へのダメージを防ぐ配慮をしたいという。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修に参加している。また資格を取得する職員への支援はしたいという。月１回の定例のスタッフ会議には、研修報告のほか、短時間ではあるが勉強会を実施している。	○	多様な状況場面に対応する技量が求められるホームとしては研修のあり方が大きなファクターと考えられる。利用者に適切な支援を提供するためにも、また求められている機能を果たす意味からも研修の体制作りは急務と考える。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流体験は、職員のスキル向上のみならず、職員間の親睦や悩みの発散、他ｸﾞﾙｰﾌﾟとの連携、ｻｰﾋﾞｽの水準の向上のために、欠かせない運営上の課題としている。現在は、グループホーム協会の定例会、勉強会には参加している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する際は、ホーム見学や入所体験を基本とするが、開設と同時に、施設からの緊急入所希望ということで、施設見学と同時に申し込みがなされ、また在宅からの入居者も職員の説明を踏まえ入居している。なお現在、待機者の方も相当数いる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お花見、火防祭見学など季節行事へ出かけたり、気分転換を図るためドライブをしたり、また利用者の誕生会やホームの行事では、利用者が歌や踊りなど特技を披露し楽しんでいる。更に、野菜づくりでは、畝作りから種まき、草取りを利用者を主体にしながら、「良かったね」「すごい」「ありがとう」「ご苦労さん」などの言葉を交わし、支え支えられる関係作りに努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のフェースシートにより常に「本人の思いはどうか」「本人らしさ」の視点で思いや意向を把握している。、利用者の新たな言動発見、家族の訪問時の意向や意見に関心を払いながら、一人ひとりにとっての最良な方向性を見い出せるよう記録がされている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	独自の「フェースシート・事前面接記録」を基に「介護計画」を作成、モニタリング、カンファレンスを行い、「個別援助計画」へと移行し、3ヶ月ごとに見直し、地道なサービスの質の確保の取り組みがなされ、家族の同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	開設10ヶ月、本人本位のサービスを目指した3回目の見直し「個別援助計画」が実施されている。この「個別援助計画」は独自の計画書であり、援助項目は利用者個々に応じ、特色に応じた援助目標が明瞭に記載され共有されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則的には家族となっているが、必要に応じて職員が同伴し支援している。また利用者や家族の要望による外泊や外出は家族同伴で実施されている。また、馴染みの友人同伴による催しへの参観や買い物外出なども行われている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な通院は家族同伴を原則にしているが、その都度、詳細な健康状態を文章にしたものを家族を通して連絡をしている。主治医からは診察結果の情報が届けられるなど、緊密な連携がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後、利用者の介護度が増す状態を考え、重度化や終末期への対応指針作成などは課題だとしているが、先ずは内部での勉強会の計画を立ち上げることとしている。	○	重度化や終末期の利用者を支えるための医療連携や職員の力量や諸条件を整えることは、ホームの必須要件となる。ホームとして「できること・できない」ことを見極めながら、勉強会が継続されることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	秘密を漏らさないはもとより、利用者が「恥かしい」と思っても、口に出せない思いを察しながら、言葉使いをはじめ、着替え・排便・排泄等の介助には、本人が惨めな思いをしないような気遣いや配慮で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後の服薬のこともあり、食事はできるだけ定刻にしていただいている。本人が出来ること、できる可能性があることに着目しながら、要望に応える散歩やドライブ、天気の日には、庭や畑の草取り、また、友人訪問時には、友人同伴との外出支援を行っているが、いずれも利用者のペースでゆったりと安心した柔軟性のある対応がうかがえる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理などは、職員が利用者のアドバイスを受けながら、後片付けは、職員がアドバイスしながら、利用者主体の活動で、てきぱきと働く利用者の明るい笑顔が印象的だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には、1日おきとしているが、毎日入浴される利用者もいるし、1番風呂の要望にも応えるように努めている。入浴状況もしっかりチェックもされている。入浴を嫌う方がいるが、しかし入浴後の機嫌は上々であるという。友人とのペアなど、入浴への誘導対応策を検討している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生育環境や昔取った杵柄等がよく把握され、一日の流れの中でも、利用者の能力に応じた役割活動をしている。ドライブや誕生会での歌や踊り、また掃除・調理・後片付け・洗濯物たたみなど、その場面その時に応じた出番など、利用者の得意や気分に応じた活動の場が設定され記録もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣、友人等の訪問者が多いホームである。特にも友人と散歩がてらの買い物や催しなどを観賞するなどは、機能の維持訓練や心理面の相乗効果が大きいと思われる。交通量の多い県道や市街地を結ぶ道など、ホームの立地環境からして安全対策が課題として挙げられる。	○	立地環境からして近隣との馴染みの関係を高める交流などには、最良の環境とも考えるが、一方車の交通量の多さから敷地外への一人散歩や外出への安全対策には万全を期すよう期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量多い環境条件を考えると、一人外出には目を離せないが、日中の施錠はしていない。なお、帰宅願望、徘徊傾向の方については、どの職員も良く把握し対応しているし、チャイムで確認はしている。情緒不安定な利用者（例えば、居室内側から鍵をかける）については、原因を推し量りながら、安定に向けた対応を考えているところである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月9日に1回目の避難訓練を実施したが、消防署や地域の方々の協力で、今後の対策に大きな示唆を頂いたという。2回目の実施は11月とし、地震を想定した訓練を予定している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格のある職員の意見を聞きながら職員全員で献立を作っている。食事制限の利用者はいないが、嗜好調査なども行い、食事・水分摂取量のチェックもしっかりされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの特大暦が目に付く。ゆったりくつろげる食卓とテレビのある畳のスペース、廊下には、2，3人座れる和式ベンチもある。リビングからは、概ね個室が見通せる構造であり、採光、空調とも調整されるいる。コーナーには季節の花が飾られ、壁面には思い出の写真などもあり、居心地の良い環境づくりへの配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、テレビ、遺影、こだわりの鏡台、お人形など、馴染みや思い出の品が整然と置かれている。また、家族写真がタンスの上に置かれたり、楽しみのパズルや歌の本なども持ち込まれ、思い思いの居室を設計している。中には馴染みの物をなかなか持ち込まれない家族もいるという。		